

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【生活単元学習】

1. 対象（実施を想定する学校・児童生徒の実態の概要） 知的障害 中学部1, 2, 3年生 18人
口頭での一斉指示を理解して行動する生徒が数人、口頭指示だけでは難しいが、周囲の生徒の動きや教師の提示したイラストを見て行動する生徒がいる。
4月から、1年生を迎える会、運動会などの縦割り活動に取り組み、それぞれの役割を果たしてきた。互いに仲間として意識しているが、自分の考えを発信すること、他者の考えを理解して仲間と協働することには課題がある。昨年度、校内キャンプ（ハイキング、野外調理、テント宿泊）を経験しており、キャンプに対する意欲や期待度が高い。
2. 単元名「仲間と一緒にキャンプを楽しもう！」（全14時間）
3. 単元で育成を目指す資質・能力
キャンプに向けたネイチャーゲームや野外調理の準備を通して、仲間と意見を伝え合って共に活動したり、目的に向かって最後まで活動し、自分の役割を果たしたりすることができる。
4. 本時の目標
 - ・色別チームの色を使ってステンシルすることが分かり、バンダナに着色することができる。
 - ・自分のバンダナの工夫した点を仲間に伝えたり、他者の物と比較して違いに気付いて発言したりすることができる。
5. 授業展開【 本時 】

解決したい課題や問い

チームの仲間がすぐに分かるバンダナを作ろう！

考えるための材料

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・単元導入時のゲームでチームの仲間とはぐれた写真 ・前回制作したバンダナ ・バンダナを制作する目的が確認できる掲示 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が作ったバンダナの良いところや、他者の物と比較して気付いたことを記入するワークシート（色、模様、配置のキーワードを記載） ・完成したバンダナを並べて提示 |
|---|--|

想定される活動

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・チームの仲間とはぐれないようにするために、どんなバンダナにすると良いか考える。 ・チームの仲間がすぐに分かるように、自分のチームの色で模様をつける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・色や配置など、自分が工夫した点を伝える。 ・自分と他者の共通点や違いを探す。 ・気付いたことを発言したり、仲間に伝えたりする。 |
|--|--|

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【3～4人の少人数グループ】

～展開の後半 作ったバンダナを他者と比較するとき（10分程度）～

- ・自分とAさんは、色別チームの色だけで模様をつけているね。赤組ってはっきり分かるよ。
- ・Bさんは他の色もいくつか使っているよ。
- ・Cさんのバンダナは、中心に模様をつけているよ。仲間からよく見えそうだ！
- ・私とBさんは同じ模様を同じ位置につけているな。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・色が合っていると、チームの仲間がすぐに分かるね！
- ・Bさんみたいに、色別の色と少し似た色を入れると、カラフルでもっとすてきになるよ。
- ・青チームの2人のように、模様をそろえると、もっと“仲間”って感じが出るな。
- ・私はちょうちょの模様にしたいから、黄色チームの模様はちょうちょにします！
- ・同じチームのCさんにも、相談した方がいいんじゃない？